



2023年度 年主題くともにつむぎだす～希望の中で～

0・1・2歳児 1月主題 「いっしょに」
月のねがい
◎神さまに守られていることを感じる(0)◎保育者や友だちと一緒にいることを喜び、関わり合う(0)◎自分でやってみようとするが増える(0)◎神さまに愛され守られていることを感じ、喜び(1.2)◎友だちの真似をしたりされたりして遊ぶ楽しさを感じる(1.2)◎冬の自然の中で身体を動かす楽しさを感じる(1.2)

3・4・5歳児 1月主題 「やってみよう」
月のねがい
◎クリスマスにお生まれになったイエス様に親しむ(3)◎友だちや保育者に自分の思いを言葉で表現し、お互いに聞き合う(3)◎霜柱、氷、雪などの冬の自然の不思議を感じ、触れながら遊ぶ(3)◎クリスマスの恵みを味わいながら、イエス様の物語を通して聖書の世界を身近に感じる(4.5)◎伝承遊びやお正月の遊びにも関心を持ち、新しい遊びをじっくり見たり、取り組んだりする(4.5)◎冬の冷たさを身体で感じ、不思議さや面白さを伝え合い、調べたり試したりする(4.5)



ちゃんと見てるよ!

あけましておめでとうございます
2024年がスタートしました。年末年始はゆっくり過ごせましたでしょうか？
年明け早々に石川県で大きな地震が起き、毎日温かいご飯を食べられること、布団でゆっくり眠れることなど当たり前のようだけれど、当たり前ではないのだと感じた正月でした。何ができるわけではないけれど、いつでも、この今の瞬間もかけがえない時間であることを知り、関わっている人や物事としっかり向き合っていくこと、『当たり前』に感謝して大切に過ごしていきたいものです。
昨年のクリスマスは、西之表キリスト教会で小1の息子と一緒に参加しました。牧師先生の話の中でサッカーの監督の話がありました。W杯のクロアチアとの最後の試合でPK戦で、他の選手がなかなか名乗り出ない中、1人の選手が手を挙げました。残念ながらゴールは決まりませんでした。その選手に対して監督は、「嫌な役回りばかりだったけれど、君は嫌な顔ひとつ見せず頑張ってくれたね。いつも見ていたよ。ありがとう。」と伝え、他の選手にも皆にメッセージを伝えたと言う話でした。
息子はその監督の話がすごく心に残ったようで、帰りの車で「監督はちゃんと見てたんだね、神様も見てるのかな？」とポツリと話していました。神様はいつでも私たちのことを見守ってくれているということを感じたと同時に、『ちゃんと見てるよ』と子どもへメッセージを伝えていきたいと考えることでした。子育てに仕事にそれぞれ大変ですが、子どもたちの夢中になっている姿、頑張っている姿、自分なりに考えている姿など『ちゃんと見てるよ』と認めていきたいですね。
3学期がスタートしました。1月はまずはおゆうぎ会、子どもたちと表現を楽しみながらお稽古をしていきたいと思えます。一年間で1番短い学期ですが、笑顔の思い出がたくさん作れたらと思います。3学期もどうぞよろしくお願ひします。
大河

今月の聖句 「神よ私たちは感謝します。」 詩篇75:1

新年、あけましておめでとうございます。
竹内まりあさんの歌に「人生の扉」という作品があります。人は皆、成長と共に年を取っていく。経験を経て、物の見方も変わっていく。50歳を迎えた頃の竹内まりあさんが、ご自身の経験を踏まえて、人生の節目を見つめながら作られた歌です。繰り返しのところに、次のような歌詞が出てきます。「20代は楽しいと私は言う。30代は素晴らしいとあなたたちが言う。40代は愛しいと人々は言う。けれども、50代はまだ捨てたもんじゃないと私は思う。60代もいよと私は言う。70代は大丈夫だとあなたたちが言う。80代でもまだ元気だと人々は言う。けれども、私は90代まで生きると思う。弱るのは悲しいと私は言う。歳を取るの辛いことだとあなたたちが言う。人生になど意味はないと彼らは言う。けれども、私はそれでも生きる価値はあると思う(原作は英文)。そのように生きることの素晴らしさ、歳を取り成長する中に意味を見出そうとする人生の応援歌です。確かに、生きる上で人生は決して楽しいこと、嬉しいことだけではなく、辛いこと、悲しいことも起きます。しかし、それでもそこに生きる意味を見出すこと、それは神さまから私たちに与えられている尊い賜物であると思えます。「神よ私たちは感謝します」という詩篇の言葉は、きっとそのような背景から生まれたのだと思います。
2024年という新しい一年が、園の通う子どもたち、その保護者、保育者をはじめとする関係者お一人おひとりとって、実り多き、祝福に満ちたもの、感謝に溢れた日々でありますように!
協力牧師 池田基宣

1月の行事予定

9日(火)	3学期始園式(1号:午前保育)
12日(金)	12・1月誕生会、給食試食会(た)
19日(金)	おゆうぎ会 予行 ※非当日
20日(土)	父母会役員会(am10:00~)
27日(土)	おゆうぎ会
29日(月)	振替休日(2・3号希望者)

2・3号認定児

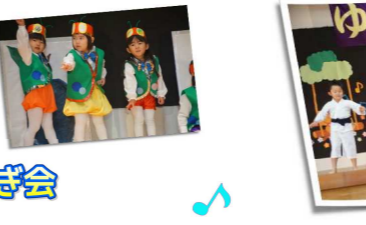
新規入園申込受付期間
1/15(月)~31(水)

定員に限りがあります。お早めに市福祉事務所へお申込み下さい!
必要書類は園にもございます。



2月の行事予定

9日(金)	2月生まれ誕生会
16日(金)	冬の一日遠足 ※非当日
17日(土)	熊毛地区教職員研修会
20日(火)	参観日(たんぼぼ・こすもす)
21日(水)	参観日(あじさいすみれ)
27日(火)	遠足予備日 ※非当日



新年明けましておめでとうございます。皆様ご健勝の内に、二〇二四年(令和六年)をお迎えになられたこと存じます。本年も、皆様にとつて希望に満ちた素晴らしい年でありませう。心からお祈りいたします。昨今の今頃、まだまだ自粛生活を強いられておりましたが、ほぼコロナ禍以前の生活に戻ったのでは実感しています。とは言え、コロナ禍で被災したあゆむ損害や痛みが未だ癒えない方たちのことも心に留めつつ過ごしていきたいと思えます。

そんな中、衝撃を受けたのは能登半島地震です。一年の計に希望の思いを馳せる元旦に起こってしまい、甚大な被害と多くの犠牲者が起りました。この言葉に失ってしまいました。現在でも二百人を超す方が安否不明とか。地震発生から刻々と時間が過ぎていきます。日ごとに犠牲者の数が増える中、一時も早い救出を心から願わずにはいられません。繰り返される自然災害に触れる度に、犠牲になられた方への哀悼の思いと供に、いつも二つのことを考えさせられます。それは、「分かち合うことの大切さ」と「守られていることへの感謝」です。両方とも分かっているつもりでも、日常生活の繰り返しの中で薄らいでしまうものではないでしょうか。大谷翔平選手を始め、多くの著名人が早々と金銭的な支援を表明されています。今回の震災も決して対岸の火事などではなく、まさか明日は我が身のこと。いつか必ず起こることが、今回は種子島ではなく能登半島沖であったということだけですが、自分自身のこととして捉え、言葉にならないほどの艱難辛苦の中なる方々に、心を寄せていきたいと思えます。

園の礼拝です。話の一つに、「ありがたうの反対はあたりまえ」があります。子どもたちに「ありがたうの反対は何?」と問うと、必ず「ありがたうじゃない」と答えます。私たちは、今ある暮らしがずっと続くのだと錯覚してしまいがちです。淡々と進む繰り返しの中で、漠然と過ごす日々があたりまえであると思ってしまうのではないのでしょうか。でも、考えてみれば、当たり前でどこにもないものです。日々の糧があること。健康であること。家族がいること。収入があること。友人がいること。そして平和に暮らせること。これらが与えられていることは当然のことではないことを忘れてしまっています。ありふれた日常こそが特別であり、奇跡そのものです。私たちは失ってしまふまで、そのありがたみに気がつかないのです。生かされていることに感謝し、足るを知る生活を送りたいものです。

「焚くほどは風がもてる落ち葉かな」 良寛さんが藩主に新しく建てる寺の住職を依頼された時に書いた句です。「風が吹いてくれれば、今日を生きる米を炊くための燃料(杉の葉)は与えられるので、今の生活で満足しています。」まさに知足の極み。

来週の土曜日は、恒例の熊毛地区私立幼稚園教師研修会です。研究テーマが「残念ながら二月に延期になってしまいました。来年度は土曜日利用の皆さんには大変迷惑をお掛けしますが、ご理解を戴きますよう宜しくお願い致します。」

三学期は、年長児にとつても園生活最後の学期です。幼児教育の仕上げの時でもあります。それぞれの子どもたちにとって、思い出深い魅力いっぱいの日々になるよう努めてまいります。本年も宜しくお願いいたします。

「なんで叩いてしまうの?」
子どものトラブル

小さな社会である園生活において、子どものトラブルは日々絶えません。友だちを叩いてしまう。物の取り合いや場所の取り合いなど、よくあることです。保育者はその度に「どうしたの?」と様子を伺い、子どもが「こんなこんなして…」と言う話しを汲み取って「じゃあ、貸してって言うてみようか」とか「どいて言おうか」と声かけをし、解決する場合もあります。

しかし、子どもの感覚の受け取り方が過敏だったりすると、人が近づいてきたことが怖くて急に叩いてしまったり、自分のエリア(心地よい場所)に人が入ってきただけで「嫌だ!」という感覚になり、自分を守るためにぶっ飛ばすとか、感覚を過敏に感じる子はビックリして同じようにたたき返してしまうとか、力加減がわからない子は「このくらい痛くないだろう」と強く叩いてしまったりする。他にも、感覚を追求したい子どもは「叩いたらどうなるんだろう」という思いで叩いてしまったり…と様々です。そのような感覚の中で生きている子どもがいます。では、どうやって関わると感覚が繋がっていくのかを考えてみます。

感覚を子どもの中で統合していくために行う
皮膚刺激の遊び

- ・子どもを膝にのせ、歌やわらべ歌などを歌いながら体を揺らしてみる。
- ・風呂に入るとき体の部位を言葉で言いながら洗う(「手を洗うね」と言ってから洗うと言葉と体験を一致させてあげられる)
- ・触るときもちょっと圧をかけてぎゅっぎゅっ触ったり、ちょこちょこだったたり、優しいさわわり方で、「優しく触って気持ちが良いね」と話しながらやってみると繋がりがやすい。
- ・背中や足の裏に触れて遊ぶ。子どもは「そんな場所があったんだ!」といつもは手の届かない体の部位の感覚が入ってくる。

それらの遊びを何回も繰り返して積んでいく。感覚を追求するという行動は自分が納得するまでやってしまうので、地道にやっていく事が大事です。毎日の少しずつで変化も少しずつ見えてきます。大人が、子どもとその体とコミュニケーションを楽しみながら触れ合うことで、子どもの感覚が繋がっていきます。是非、試してみてください。

副園長